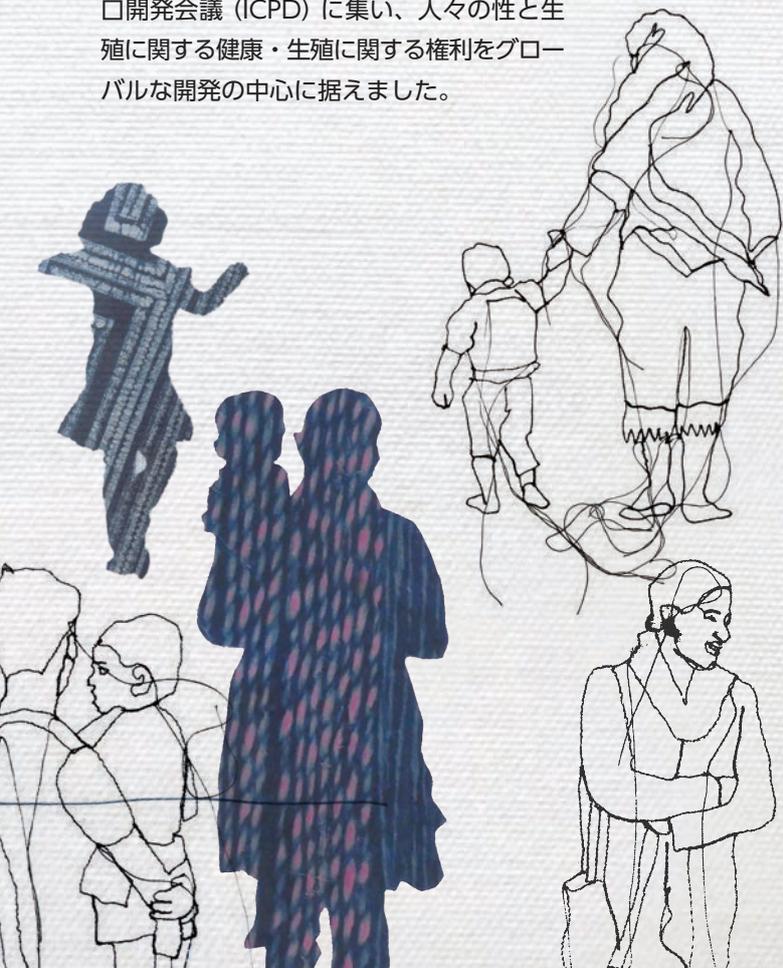




織りなす命、 希望の糸

性と生殖に関する健康と権利の
不平等を終わらせるために

30年前、世界はカイロで開かれた国際人口開発会議 (ICPD) に集い、人々の性と生殖に関する健康・生殖に関する権利をグローバルな開発の中心に据えました。



私たちはそれ以来、ICPDの行動計画達成に向け、飛躍的な進歩を遂げてきました。それでも、数百万人もの人が毎日、その健康と権利を依然として否定されています。この状況は終わらせられますし、また終わらせなければなりません。



Artwork by Rosie James

進歩を称えよう

1994年に、179か国の政府がICPD行動計画を採択し、すべての人々の性と生殖に関する健康・生殖に関する権利を擁護することで合意しました。この画期的な合意は、女性と少女個人の自己決定権を最優先することなしに、包摂的で持続可能な開発は達成できないことを確認するものでした。

私たちの成果

- ✕ 2000年から2020年の間に、世界の妊産婦死亡率は34%低下しました。
- ✕ 15歳から19歳の少女の出産は、2000年以降、およそ3分の1減少しました。
- ✕ 1990年から2021年にかけて、近代的な避妊薬・具を使用する女性の数は倍増しました。
- ✕ 162か国というかつてない数の国々が家庭内暴力(DV)を禁止する法律を制定しました。
- ✕ 2021年の新規HIV感染者数は、2010年に比べ、ほぼ3分の1減少しました。



取り残されているのは誰か

この30年間に大きな前進は見られたものの、からだの自己決定権や妊産婦死亡率の削減といった問題の進展は鈍化しており、場所によっては後退さえ起きています。数百万人が前進から取り残されており、その一因は、こうした人々が日常的に直面する複数かつ複雑な形の社会的疎外と差別によるものです。

私たちの国際社会で最も恵まれた人々は、進歩の恩恵を最も受けやすくなっています。その一方で、どの社会にも不平等が広がり続け、数百万人が基本的な性と生殖に関する健康と権利（セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）を奪われています。ジェンダーに基づく差別や不平等など、幾層にも連なる社会的疎外を経験する人も多くなっています。

進歩はどこで滞っているか

- 68 か国では、女性の4分の1が自分自身のヘルスケアに関する決定を下すことがいまだにできません。
- ほぼ10人に1人の女性は、避妊について、自分で決めることができません。
- 25 か国を対象とした調査で、社会経済的地位の比較的高い女性やすでに恵まれている民族集団の女性ほど、ヘルスケアに対する障壁がすみやかに取り除かれています。
- 複数年のデータが入手可能な32か国のうち19か国では、女性がからだの自己決定権を行使できる能力が高まっていますが、13か国では逆に低下しています。
- 4分の1の女性は、夫やパートナーとの性行為を拒むことができていません。
- 毎日、およそ800人の女性が今でも、出産時に命を落としています。こうした死亡はほぼすべて予防することができます。これらの死の大半は開発途上国で生じています。
- 2016年から2020年にかけて、全世界の年間妊産婦死亡の減少率は事実上ゼロでした。
- 障害を持つ女性と少女は、性暴力を含め、ジェンダーに基づく暴力を受ける可能性が10倍高いとされています。



私たちは、ジェンダー平等および性と生殖に関する健康と権利への投資が、より公正な未来を確保するために欠かせないことを知っています。それだけではありません。こうした投資は大きな経済的利益をもたらします。家族計画と妊産婦の健康にさらに790億ドルを投資すれば、2022年から2050年までの間に、死亡する妊産婦が100万人減少するだけでなく、約6,600億ドルにも上る経済効果をもたらします（Investing in three transformative results “Realizing Powerful Returns” UNFPA, 2022）。公共・民間・社会セクターのジェンダー格差を世界的に解消すれば、全世界の国内総生産（GDP）はさらに12兆ドルも増えることとなります。また、全世界のGDPを5%に相当すると考えられている親密なパートナーからの暴力に終止符を打てば、生産性と収益が短期かつ長期的に改善し、そのインパクトは数世代にわたって波及することでしょう。しかし、世界は女性のエンパワーメントにも、彼女たちの命を救うためにも十分な投資を行っていません。これは、アイデアや資源の不足というよりも、意思の不足を示唆しています。

このことは、ジェンダーの不平等、人種差別、誤情報という世界的な負の遺産と関連しており、これらはいずれも保健医療制度に深く根を張っています。助産の分野を見ても、出産に助産師の立ち合いを増やせば、妊産婦死亡の41%が回避できるという事実にもかかわらず、大半が女性であるこの職種は世界的にも依然として低賃金で正当な評価を受けていません。一方で、黒人と先住民族の女性に対する差別は依然として、産科での暴力やネグレクト、妊産婦死亡率の高さとなって表れています。

大規模な性と生殖に関する権利のプログラムが重視された結果、多くの人々に多大な恩恵をもたらす一方で、最も手の届きにくい人々が置き去りにされたことが、いま分かっています。多くの場所で不平等が拡大しており、ICPD行動計画はまだ達成できていません。

前途を紡ぐために >>>

それでも、世界のあるべき姿に関する新しいビジョンが勢いを増しています。それは、個人の権利や福祉を強化することで、集団全体の権利や福祉が強化されることであり、逆もまた然りです。気候変動から人口動態の変化、さらにはデジタル革命に至るまで、世界最大の懸案事項には、全体の利益のための協働的な行動によってのみ取り組むことができるからです。

今後 30 年の前進があらゆる人を包摂できるようにするためには、すべての人に包括的で普遍的、かつインクルーシブな性と生殖に関する保健サービスを提供し、その権利を保障する方向に軸足を移さなければなりません。そのためには、経済、社会、政治、そして環境面の不公正が人々の健康と権利に及ぼす多種多様な影響に対処する、個人のニーズに対応し焦点を絞った保健医療プログラムを策定する必要があります。また、人々の経験を幅広く平均的に捉え、多様な要因を踏まえた詳細なデータの収集に尽力することに前進することも必要です。

連帯すれば、それは可能となります。私たちは、何百万人もの人々が本来の可能性を十分に発揮することを阻害してきた構造やシステムを徹底的に見直すというグローバルな総意を必要とする、歴史上の大きな転換点を迎えています。社会的疎外と差別の終焉に向けて、一気に進展させることは可能であると同時に、必要でもあります。しかしそのためには、今すぐに始める必要があります。



Photo © UNFPA Tanzania/
Ayubu Lulesu

より公平な未来は どうすれば創れるか？

- > **安価で質の高い妊産婦医療へのアクセスを改善し、女性医師の数を増すことで、著しい成果を上げることができます。**インドでは、このような取り組みの結果、世界全体の妊産婦死亡数に占める割合が 1990 年の 26% から、2020 年には 8% に減少しました。
- > **出産への助産師の立ち合いを増やすことにより、妊産婦死亡の 41%、新生児死亡の 39%、死産の 26% を回避できます。**
- > **男女の平等を進めることにより、世界の GDP 成長率に対する女性の貢献が倍増し、10 年間で全世界の GDP が 12 兆ドル引き上げられます (Investing in three transformative results REALIZING POWERFUL RETURNS, UNFPA, 2022)。**
- > **あらゆる人の可能性を発揮させるための必須要素として、コミュニティのリーダーシップとパートナーシップを認識すること。**カナダ北部では、伝統的な出産の慣習を復活させ、先住民の女性たちのストレスが軽減し、意思決定により深く関与するようになり、より良い心理社会的サポートが得られるようになりました。

1994 年以来、多くの成果が見られてはいますが、私たちはさらに前進しなくてはなりません。健康結果を改善し、予防可能な妊産婦死亡をなくすための取り組みだけでは、不平等や差別、先入観、偏見に起因する障壁を克服できないことを、世界は何度となく経験してきました。しかし、この事実はおそらく、ICPD 行動計画と、「持続可能な開発目標 (SDGs)」を含むアジェンダ 2030 の両方を含め、すべての人の権利と選択を実現するために私たちが合意した目標を達成できる絶好の機会を提供してくれています。私たちはそのために、悲観するのではなく、忍耐強く再び行動する決意することが必要であることを知っています。私たちには、一人ひとりの尊厳と価値観を認め合う未来を創造する能力があります。それは、すべての人の権利を保障するためには、個々の権利を保障せねばならないことを認識する世界に他なりません。人類という豊かで美しい織物の強さは結局のところ、最も弱い糸の強さで決まるのです。



すべての人々に権利と選択を

www.unfpa.org/swp2024



Cover image by Nneka Jones @artyouhungry